

ベターオプションズ調査研究レポート vol.3

2018年11月30日に、第一回公認心理師試験の試験結果が発表され、27,876名(合格率:79.6%)の方が合格しました。株式会社ベターオプションズ(以下、弊社)は、第一回公認心理師試験を受験した方を対象として、試験の対策状況や難易度の感想等について尋ねる調査を2018年10月から11月にかけて実施しました。本稿では、その調査結果を報告します。

調査結果概要

- ✓ 試験対策で役立つ基本テキストとしては、回答者の約6割が現任者講習会の指定テキストを選択。
- ✓ 公認心理師試験対策のための書籍への支出額、セミナーや受験対策講座への支出額は、いずれも1万円~5万円未満のゾーンが最多。臨床心理士資格を保有している回答者は書籍、保有していない回答者は、セミナーや受験対策講座への支出額が多い傾向。
- ✓ 「心理学・精神医学」、「事例問題」を予想よりも難しく感じた回答者が多く、「各領域の法令・制度」については、予想よりも簡単だったと感じた回答者が多い傾向。

【本レポートに関する照会先】

株式会社ベターオプションズ調査研究部 (<https://better-options.jp/>)

メール: daisuke.miyanaka@better-options.jp 電話: 03-6403-3871

本レポートの内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め株式会社ベターオプションズまでご相談ください。また、転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

調査結果詳細

1. 公認心理師試験対策で役立ったテキスト・問題集について

1.1 公認心理師試験対策で役立ったテキストについて

試験対策のための基本テキストとしては、現任者講習会のテキストとして指定された「公認心理師現任者講習会テキスト[2018年版]」に加えて、「公認心理師必携テキスト」が役立ったと回答した方が過半数以上を占める結果となりました(図表 1-1)。その他にも「公認心理師エッセンシャルズ」、「公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法」といった公認心理師対応を謳った書籍が基本テキストとして支持を集める結果となりました。

一方で、心理学一般のテキストおよび心理学事典は、役立ったと回答した方が少ない結果となりました。心理学一般のテキストに関しては選択肢に挙げた書籍以外にも多数出版されているため、今回の調査の選択肢に含まれている「心理学 第5版」や「心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)」以外のテキストを用いて勉強した方が多い可能性があります。

タイトル	著者・编者	役立ったと回答した人の割合
公認心理師現任者講習会テキスト[2018年版]	日本心理研修センター	63.2%
公認心理師必携テキスト	福島哲夫他	56.1%
公認心理師エッセンシャルズ	子安増生他	31.6%
公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法	下山晴彦他	22.8%
心理学 第5版	鹿取廣人他	5.3%
心理学辞典	中島義明他	5.3%
誠信 心理学辞典[新版]	下山晴彦他	1.8%
心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)	無藤隆他	1.8%

図表 1-1 試験対策で役立った基本テキスト(複数回答可) n=57

1.2 公認心理師試験対策で役立つ問題集について

試験対策で役立つ問題集としては、「公認心理師試験 これ1冊で!最後の肢別ドリル」および「心理学検定公式問題集」を挙げた方が多くなりました(図表 1-2)。

「心理学検定公式問題集」は、心理学検定の対策を目的とした問題集であり、必ずしも公認心理師試験対策を意図した問題集ではありませんが、第一回試験においては、基礎心理学の幅広い知識が問われたこともあって、役立つと感じた方が多くなった可能性があります。

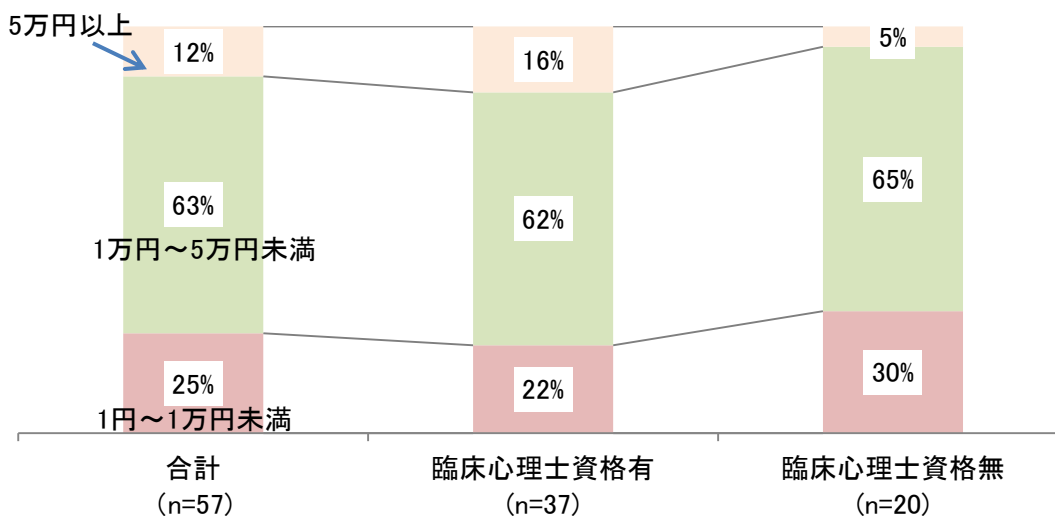
タイトル	著者・編者	役立つと回答した人の割合
公認心理師試験 これ1冊で!最後の肢別ドリル	辰巳法律研究所	43.9%
心理学検定公式問題集シリーズ	日本心理学 諸学会連合 心理学検定局	38.6%
公認心理師基礎用語集—よくわかる国試対策キーワード 117	松本真理子他	19.3%
公認心理師国試必須センテンス	福島哲夫他	17.5%

図表 1-2 試験対策で役立つ問題集(複数回答可) n=57

2 公認心理師試験対策のための支出

2.1 書籍への支出額

公認心理師試験対策のために新規に購入した書籍代(ただし、現任者講習会テキストは除く)は、1万円～5万円未満と回答した方が約6割を占め、最も多い結果でした(図表 2-1)。なお、新規に購入した書籍代が0円という回答者は0人でした。臨床心理士資格の保有の有無別に支出額を見ると、臨床心理士資格を保有している回答者において、5万円以上の支出をした回答者の割合が多くなりました。



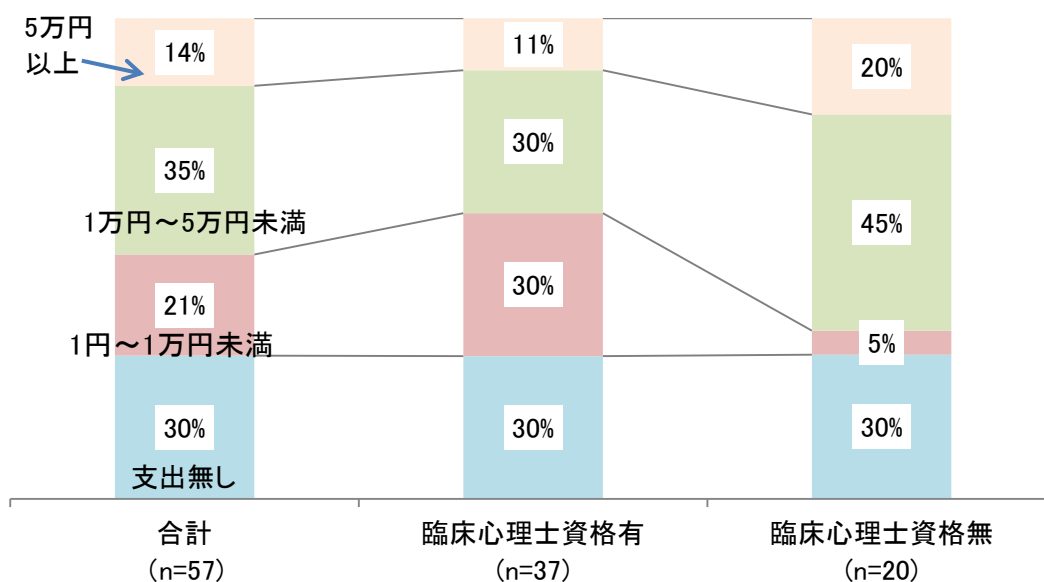
図表 2-1 試験対策のための書籍への支出額(ただし、現任者講習会テキストは除く)

2.2 セミナー、受験対策講座への支出額

第一回試験のためのセミナーや受験対策講座への支出額(ただし、現任者講習会への支出は除く)は、1万円～5万円未満と回答した方の割合が最も多くなりました(図表 2-2)。

臨床心理士資格の保有の有無別に見ると、臨床心理士資格の保有者では、約6割が1万円未満の支出だったのに対して、臨床心理士資格を保有していない人では65%の回答者が1万円以上の支出、5万円以上を支出した回答者も約20%存在し、臨床心理士保有者に比べてセミナーや受験対策講座に支出した金額が多いことが示唆されます。

「2.1 書籍への支出額」の結果と合わせて考えると、臨床心理士資格を保有している回答者は書籍による対策が中心でセミナーや受験対策講座の受講が少なく、一方で、臨床心理士を保有していない回答者は受験対策機関等の対策講座を受講された方が多かったのかもしれません。



図表 2-2 試験対策のための受験対策講座への支出額(ただし、現任者講習会は除く)

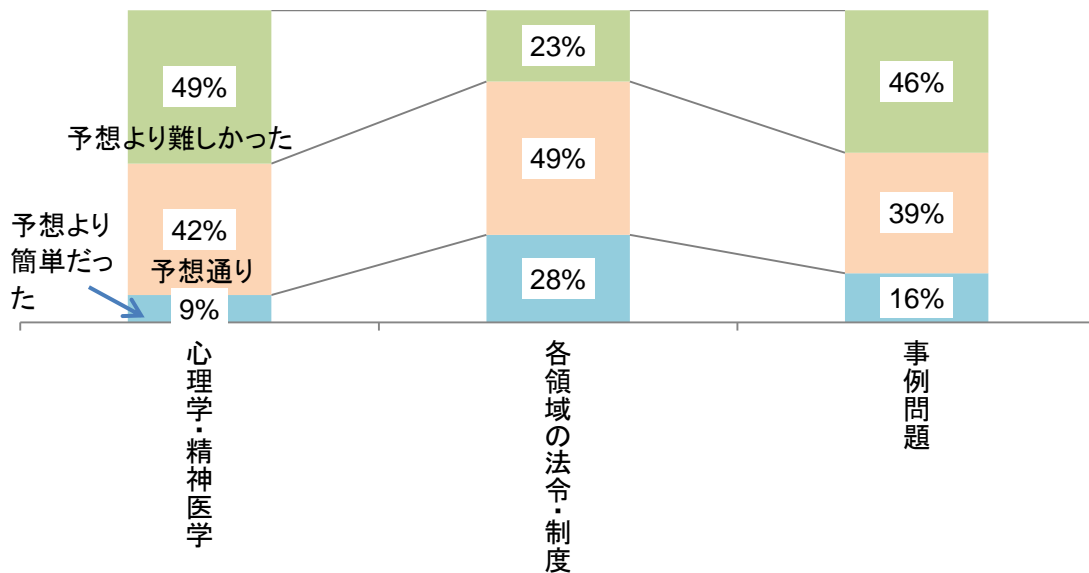
3 第一回公認心理師試験の難易度について

3.1 全体

公認心理師試験では、大きく、「心理学・精神医学」、「各領域の法令・制度」、「事例問題」の3分野について出題されています。

3分野別に、予想と比較した難易度を尋ねた結果を見ると、「心理学・精神医学」および「事例問題」に関して、予想よりも難しかったと感じた回答者が過半数近くなりました(図表 3-1)。

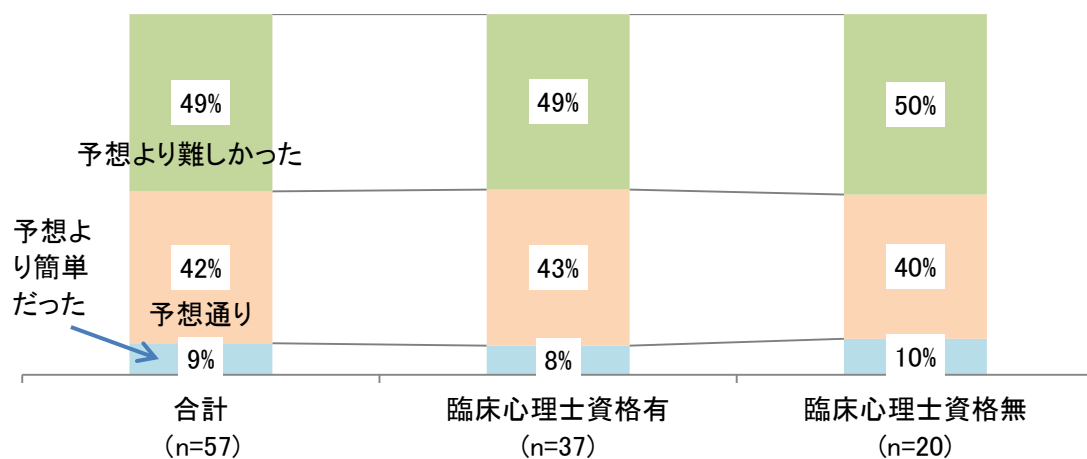
「各領域の法令・制度」については、予想よりも簡単だったと感じた回答者の割合が高いことが特徴です。第一回試験では臨床心理士資格保有者を中心に「各領域の法令・制度」に身構えた方が多かった印象ですが、実際の試験問題では基本的な内容の出題が多く、直前に改正された法令やあまりにも詳細な内容が問われる問題が少なかったことが背景にあるかもしれません。



図表 3-1 公認心理師試験の領域別の難易度 n=57

3.2 心理学・精神医学に関する問題の難易度について

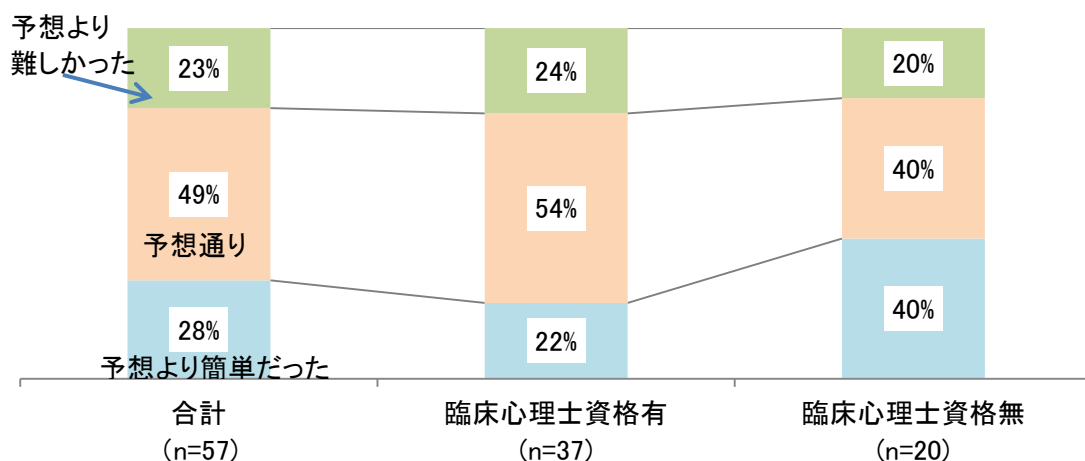
「心理学・精神医学」については、約半数の回答者が予想よりも難しかったと回答し、予想よりも簡単だったと回答した回答者は全体の1割未満でした。その傾向は、臨床心理士資格の有無別に見ても同様でした(図表3-2)。「心理学・精神医学」については総じて予想よりも難しかったと感じた方が多かったようです。その背景には、基礎心理学のほぼ全領域にわたって出題され、比較的マイナーな事項や近年提唱された理論についても問われる出題があったことがあるかもしれません。



図表 3-2 心理学・精神医学に関する問題の難易度

3.3 各領域の法令・制度に関する問題の難易度について

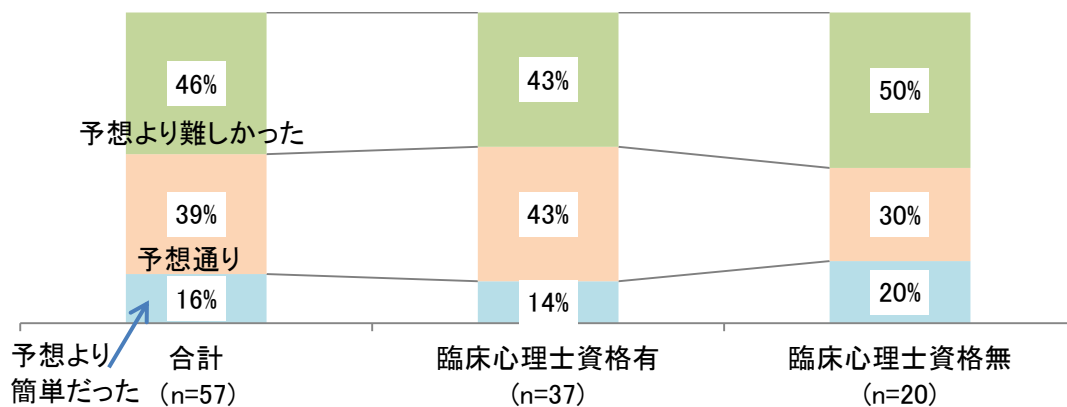
「各領域の法令・制度」の難易度の捉え方については、臨床心理士資格の有無別で傾向に差があり、臨床心理士資格を保有しない回答者で予想より簡単だったと感じた方の割合が高くなりました(図表 3-3)。例えば、精神保健福祉士のような福祉系の資格では、法制度に関する出題が多いため、今回の公認心理師試験の出題内容を簡単だと感じた方が多かった可能性があります。



図表 3-3 各領域の法令・制度に関する問題の難易度

3.4 事例問題の難易度について

「事例問題」については、臨床心理士資格を保有していない回答者では、予想よりも簡単だったという回答と、予想より難しかったという回答に二極化しました(図表 3-4)。臨床心理士資格を保有していない回答者は、法制度を問われることの多い精神保健福祉士などの福祉系の資格者と、産業カウンセラーや学校心理士のような臨床系の資格者に分けられると推測されます。前者では難しく感じた方が多く、後者では事例に馴染みがあるため簡単に感じた方が多かった、という理由で二極化が生じた可能性があります。



図表 3-4 事例問題の難易度

■参考資料:調査概要

回答者:2018年度(第一回)公認心理師試験の受験者 57名

調査実施時期:2018年10月~11月

調査方式:弊社ホームページでのWEBアンケート

調査票:

Q1:下記のうち、2018年度公認心理師試験対策のための基本テキストとして役立ったと思う書籍があれば選択してください(複数選択可)※利用したものの役に立たなかったと思う書籍は選択しないでください。

- ・ 「公認心理師現任者講習会テキスト[2018年版]」 一般財団法人 日本心理研修センター
- ・ 「公認心理師必携テキスト」 福島哲夫ほか
- ・ 「公認心理師エッセンシャルズ」 子安 増生、丹野 義彦ほか
- ・ 「公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法」 下山 晴彦、中嶋 義文ほか
- ・ 「心理学 新版(New Liberal Arts Selection)」 無藤 隆、森 敏昭、遠藤 由美 ほか
- ・ 「心理学 第5版」 鹿取 廣人、杉本 敏夫、鳥居 修晃ほか
- ・ 「心理学辞典」 中島 義明 子安 増生、繁樹 算男、箱田 裕司ほか
- ・ 「誠信 心理学辞典[新版]」 下山 晴彦、遠藤 利彦、齋木 潤ほか

Q2:下記のうち、2018年度公認心理師試験対策のための問題演習やキーワード対策として役立ったと思う書籍があれば選択してください(複数選択可)※利用したものの役に立たなかったと思う書籍は選択しないでください。

- ・ 「公認心理師基礎用語集——よくわかる国試対策キーワード117」 松本 真理子、永田 雅子ほか
- ・ 「心理学検定公式問題集」シリーズ 日本心理学諸学会連合 心理学検定局
- ・ 「公認心理師試験 これ1冊で!最後の肢別ドリル」 辰巳法律研究所
- ・ 「公認心理師国試必須センテンス」 福島哲夫ほか

Q3:2018年度公認心理師試験対策のために新規に購入した書籍の総額(概算)を選択してください。

※なお、現任者講習会のテキストおよび受講費用は除いて考えてください。

- ・ 0円(支出なし・過去に購入済みの書籍で対応)
- ・ 1円~1万円未満
- ・ 1万円以上5万円未満
- ・ 5万円以上

Q4:2018年度公認心理師試験対策のために受講したセミナー、受験対策講座への支出総額(概算)を選択してください。

※なお、現任者講習会のテキストおよび受講費用は除いて考えてください。

- ・ 0円(支出なし)
- ・ 1円~1万円未満
- ・ 1万円~5万円未満
- ・ 5万円以上

Q5: 2018 年度公認心理師試験の心理学・精神医学に関する問題(法令・制度、事例問題は除く)の難易度は予想と比較して如何でしたか？

- ・ 予想よりも簡単だった。
- ・ 予想通りの難易度だった。
- ・ 予想よりも難しかった。

Q6: 2018 年度公認心理師試験の事例問題(心理学・精神医学に関する問題、法令・制度に関する問題は除く)の難易度は予想と比較して如何でしたか？

- ・ 予想よりも簡単だった。
- ・ 予想通りの難易度だった。
- ・ 予想よりも難しかった。

Q7:2018 年度公認心理師試験の事例問題(心理学・精神医学に関する問題、法令・制度に関する問題は除く)の難易度は予想と比較して如何でしたか？

- ・ 予想よりも簡単だった。
- ・ 予想通りの難易度だった。
- ・ 予想よりも難しかった。

Q8:臨床心理士資格は保有していますか？

- ・ 保有している。
- ・ 保有していない。

以上